

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名： 上野 弥生
 (事業所) NPO法人ワークホーム結
 役 職： 施設長

発表者名： 森藤 明子
 (事業所) ワークショップリーフ
 役 職： 施設長兼サービス管理責任者

【発表事業所の概要】

事業区分	生活介護 (知的)
定 員	20人 在籍14人
活動内容	・農作業 (有機栽培・ハーブ) 草木染製品、紙漉き製品、ハーブティ

【支援・活動対象者の概要】

性 別	女性
年 齢	40代後半
障 害 の 種 別 ・ 特 性	知的障害・人との関わりは大好き 自分から意思表示、要求行動はあまりない。水分補給、トイレに行く事も指示を待ち限界まで我慢する。

【支援・活動事例の概要】

目 標 ・ 目 的	・ 意思表示するための方法を持っていない (教えられていない) ことが多く、周囲から見ると好ましくない不適切な行動として度々みられる。リーフでは好ましくない、不適切な行動も本人の伝達方法の一つと捉えお互いに好ましい方法へ切り替えることや、環境の調整をすること、新しい伝達方法を獲得することを目的とする。
計 画 ・ 手 段	・ 午後の作業がひと段落したら、スタッフへ終わりの報告をする。 ・ 一緒にトイレに行く (トイレの流れを作り指示、誘導や声掛けだけではなく自分で行けるように支援方法を組み立てる。)
内 容 ・ 経 過	・ 「一日何事もなくてよかったね」で終わってしまう、何も聞かずに終わってしまうことのないよう、その人一人ひとりに合わせた支援 (肩をたたくことができる人、できない人には別のサインを考える。) を心掛けている。
結 果 ・ 課 題	<p>〈結果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会話のキャッチボールが必要、トイレに行きたいとき肩をたたいてもらうことも一つ。 ・ その方の障害特性を理解することが大切。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語、会話、コミュニケーション難しい <p>他害 意思伝達が難しい方に、何をしたらよいか? (のどが渇いた・お腹がすいた・どこそこに行きたい) そのような要求があるとき、他害の行為という周囲の人に受け入れてもらえない表現方法の方への支援方法。</p>

【発表事業所の概要】

事業区分	生活介護（知的）
定員	定員20名 在籍14名
活動内容	農作業（有機栽培・ハーブ）、草木染製品、紙漉き製品、ハーブティ

【支援・活動対象者の概要】

性別	男性
年齢	40代後半
障害の種別・特性	知的障害自閉症 伝達行動少ないが、理解力行動力はあるため、度々問題行動につながる。はい、いいえの選択行動がはっきりしていない。本人の意思確認が難しい。

【支援・活動事例の概要】

目標・目的	<p>・意思表示をするための方法を持っていない（教えられていない）、周囲から見ると好ましくない不適切な行動として表現していることが度々みられる。リーフでは好ましくない不適切な行動も本人の伝達の方法のひとつと捉えお互いにとって好ましい方法へ切り替えることや、環境の調整をすること、新しい伝達方法を獲得することで、伝わらないもどかしさや生き方を少しずつ改善する。</p>
計画・手段	<p>・本人の確実に好きなものと、嫌いなものを提示し、○と×をマッチング。 ○×の区別がついていない、どうやって表現してもらうか？どっちにも手を挙げる人、確実に選ぶであろうことから選択してもらう。</p> <p>・はっきり伝達できるようになった段階で、好きなものと別のものを提示して選択してもらう。</p>
内容・経過	<p>・どちらがいいか聞かれた事がない・・・スーパーで何も選べない、本人はハンカチが好きで毎日持ってくるが本人が選ぶ機会がなかったのでごくごく簡単なもの確実に選ぶであろうという前提で行う、それにより本人の好みがわかったりもした。徐々に見慣れないもの、聞きなれないものへと選択肢を広げていった。</p>
結果・課題	<p>〈結果〉○×、イエス・ノーの区別と表現方法・選択行動・意識して伝達行動の場面設定や機会を増やす・お互いが理解できるコミュニケーション手段を作る・コミュニケーションが一方通行にならないように配慮する。</p> <p>・言葉だけではなくサイン、絵カード、文字、色等でその人に合わせて変えていく。 ・障害の特性を知り、理解し、会話のキャッチボールができるよう工夫する。</p> <p>〈課題〉 その人一人一人の特性を知ることが大切、そのために、日々のコミュニケーションをどのようにとるか</p>

記録者名： 上野 弥生
(事業所) ワークホーム結
役 職： 施設長

発表者名： 法月 聡子
(事業所) 安倍口作業所
役 職： 世話人

【事業所の概要】

事業区分	就労継続支援 B(精神・知的・身体)
定 員	24人 在籍35人
活動内容	・ハープ自動車コネクターと電線の取り付け作業 ・プラ板セット及び袋・箱詰め作業 ・自動販売機によるドリンクの販売

【支援・活動対象者の概要】

性 別	女性
年 齢	58歳 (子供3人離婚歴あり)
障 害 の 種 別 ・ 特 性	躁うつ病希死念慮の状態悪化12 回入退院繰り返す服薬管理保護的環境のもとでの支援必要。かなり自分の思いが強く自己解釈で動く衝動的突発行動がある。

【支援・活動事例の概要】

目標・目的	・本人の希望である、A型事業所への移行、単身生活という就労場所と生活場所の確保
計画・手段	・ルールを細かくし見守っていく。 ・他の福祉サービスとの連携を行っていく。
内容・経過	・A型事業所移行を希望し現在GHを利用しているので、A事業所と情報交換を行いながら、GHで毎週30分ほどご本人と話をし体調やメンタルの見守り強化する。 ・スマホ結婚紹介サイトで彼氏ができすぐに結婚したいと訴えがあった時、病気のことなど家族に伝えること、周囲に認めて貰えるよう実績を作ることが大切等々アドバイスをし本人に納得し承諾してもらう。 ・ご家族、相談支援事業所、PSW、訪問看護師、A型事業所、GHが連携し情報共有し定期的な話し合いを行った。
結果・課題	〈結果〉 市内のアパートに引っ越しをし、単身生活へ移行、NPO法人風の会から卒業される。 現在もA型事業所に通いながら交際相手とも順調にお付き合いを続けています。 何かあるときは、相談支援事業所相談できるようになり、ともすればつっぱしりそうになるご本人の思いを修正しながら、安定した生活をされている。 〈課題〉 ・約束事を守ることができるようにする為の支援方法が課題。 ・精神障害の方に多く見られるのが言葉巧みだからこそ(本人も上手く伝えられない)、本質が見えない、本人の思っていることが支援者側に伝わりにくい。

【まとめ】

(テーマに対する分科会としての結論や方向性)

- ・個々の障害の特性、その方の性格や特徴を踏まえながら、意思の尊重のためにどういう支援が必要か、タイミングを計りながら見極め本人と調整していくことが重要である。
- ・ご本人と支援者との間で普段からのコミュニケーションが必要で、関係づくりをしっかりしていくべき。

【意見交換】

(事例からテーマを抽出して)

・聴覚障害(ろう重複障害) 在籍19名 ありんこの里

部屋に閉じこもりの女性・お迎えに行くと布団をかぶり出かけようとしない。自分の意志でありんこに行きたいと思うまで待つ。「待つ」ことの大切さ!

何で怒ったの? どうして? と聞き、話してくれるまで待つ!

一般の会社に入ったものの問題行動として捉えられてしまう。感受性豊かでそれぞれ違う。私たちはその人を理解できているのか?

・ありのままの姿をどう捉えるか? 寝たままにしているよいか? 本人の言うことをそのままのみにしているよいか? その行動がどうして起こるのか、どういう願いをもってそのような行動をしているのか、それをどう捉えるか。

・選択してもらい100パーセント偏ってしまうときは、少し嫌なことをやってもらいそのあと好きなことをやる また少し嫌なことをやってもらいそのあと好きなことをやってもらうその繰り返しの支援をしている。嫌なことでもやらなければならないこともある。

・工賃の使い方どうしているか? 買い物選べない カレーを買っても温めることができず冷たいカレーを食べる 「おにぎり100カロリー1個です」「お母さんに言われました」自閉の方ですが、どうしたら好きなものを食べられるか、どのような工夫をしたらよいか

・自分のペースでゆっくり行う人 バンバンやってお金を稼ぎたい人に対して本人の意思を尊重してアンケートをとっている無理だったら「今日は無理だよ」と言ってくださいよと伝えてねと言っている

・日々の意思の疎通こだわりの日々の小さな心地よさ、常日頃からの関わりが大切!

・全て信頼関係!

・そもそも意思って決定するものなの? 後悔はかならずある、次のステップへの欲、より良いものを探求していく

意思探求支援に変えたらどうか? 本人の思いからずれてしまいがち、最初からプログラムありきで、当事者より優位に立ち、最も支援が必要な人ほど声の上げ方を知らないのではないのか。



【まとめ】

(テーマに対する分科会としての結論や方向性)

- ・些細な日常のコミュニケーションの先に見えてくるものがある。
- ・時間に寄り添う、人に寄り添う。
- ・利用者と支援者にわかりやすいサインを考える。
- ・支援者は利用者に相談せず、突っ走ってしまう、結婚、貯金、一人暮らし等々自己実現するために様々な機関に携わってもらい方向性を見つけていく。当事者を外さない。たとえ外しても案をしっかりと本人に伝えることが不可欠。
- ・信頼関係を高める。
- ・意思決定支援とは一言で・・・ 「心」
「ゆとりをもって待つ心」
「1対1」
「日々の積み重ね」
「信頼関係」
「日常」
「仲間の視点に立つ」
「自分が気持ちいいって思うこと」
- ・ 答えは一つではない
- ・ 私たちの仕事は何なんだ 小手先の技術のみでなく、友人のようにそばにいること。
- ・ 倫理観、価値観を共有し、仲間とつながることが大切。
- ・ 正解はないが不正解はある
- ・ 阿部先生のお話にもあったように、「この仕事について楽しかった」と思えるような仕事をするのが大切！

